

【開催要旨】

第10回 木曽川上流水防災協議会(愛知ブロック)を開催し、「木曽川上流の減災に係る取組方針(令和3年度～令和7年度)」のフォローアップを行いました。重点的な取組である「教育委員会と連携した小・中学校への防災教育の幅広い推進」及び「排水作業準備計画の作成と計画に基づく訓練」について、令和5年度の実施内容と令和6年度の取組(案)を確認しました。また、住民防災意識アンケート及びフォローアップの結果等を踏まえて、水害リスクの自分事化の参考となる取組(大治町、岩倉市、木曽川上流河川事務所)を共有しました。

- 日時： 令和6年7月10日(水) 16:00～17:00
- 場所： 豊田合成記念体育館 ENTRIO コンベンションホールB、C
- 出席者： 27機関(県、市町、気象台等 約30名)
- 議 事： 1) 規約改定(案)
2) 「木曽川上流の減災に係る取組方針」令和5年度のフォローアップについて
① 令和5年度の実施結果のフォローアップ
② 令和5年度 住民防災意識調査アンケート結果
③ 木曽川上流水防災協議会における課題を踏まえた取組事例の紹介
3) 重点的な取組について
① 教育委員会と連携した水防災教育の推進について
② 排水作業準備計画の作成について
4) その他の取組について(流域タイムライン、WEB会議ツールの活用)



排水作業準備計画
の動画視聴の様子

事務局の説明▶



◀ 協議会の様子

「木曽川上流の減災に係る取組方針」における重点的な取組① 教育委員会と連携した水防災教育の推進について

【令和5年度の実施内容】

- ・ 水害危険性を整理した資料などの活用しやすい教材等を提供するために、防災教育ポータルサイトを再構築した。
- ・ 出前講座を広報するため、『災害・避難カード』を活用した授業の広報用動画を作成した。



▲ 広報用動画(一部抜粋)

「木曽川上流の減災に係る取組方針」における重点的な取組② 排水作業準備計画の作成について

【令和5年度の実施内容】

- ・ これまで先行的に羽島ブロックで検討した内容を他の氾濫ブロック全体にも広げるために、関係機関に排水作業準備計画図(案)の意見照会を実施した。
- ・ 意見照会の回答を反映した排水作業準備計画図の配布を行った。



▲ 排水作業準備計画に
関する広報用動画(一部抜粋)

木曽川上流河川事務所からの取組事例の紹介

【まるごとまちごとハザードマップの推進】

- ・ 生活空間である「まちなか」に水防災に関する各種情報を表示する「まるごとまちごとハザードマップ」の取組を推進するために、新たなデータ(水害リスクマップ・人流データ)を活用した評価方法を紹介した。



▲ まるごとまちごとハザードマップの例

【イベントで活用できる動物をモチーフとしたアンケートの作成、実施】

- ・ 楽しみながら自分の防災意識を確認できるアンケートを紹介。
- ・ 自分のタイプに応じた対応をアドバイスシートで確認することで、住民の方は、気づきを得ることができる。



▲ 動物をモチーフとしたアンケート

⇒次頁に市町の取組事例について記載

【市町の取組事例の紹介】

【大治町】「楽しく学ぼう！ぼうさいマスターin おおはる」の実施(説明者:山田 防災危機管理課長)

- ・総合防災訓練の代わりとなる取り組みとして、令和4年から住民の方に参加する形式の「楽しく学ぼう！ぼうさいマスターin おおはる」を実施している。
- ・本取組は防災に関する様々なブースがあり、その一つとして参加者に「マイ・タイムライン」を作成していただくブースを設置した。
- ・作成には国土交通省のマイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」を活用した。
- ・自主防災組織の方が指導者となり、参加者のマイ・タイムラインの作成を支援した。
- ・大治町は庄内川、新川、福田川に挟まれており「水害リスク」が高い地域である。
- ・参加者の中には「ハザードマップ」を初めて見た人も多く存在していた。
- ・参加者にはハザードマップを実際に見て、自宅の「水害リスク」を知ってもらい、参加者自身の「マイ・タイムライン」を作成してもらう機会を創出する取り組みとなった。



▲楽しく学ぼう！ぼうさいマスターinおおはる2023「マイ・タイムラインってなに？」ブースの様子



▲マイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」

海部地方の7市町村合同で防災リーダー養成講座の開催

- ・毎年、海部地方の7市町村合同で防災リーダー養成講座を開催している。
- ・令和5年度の担当が大治町であり、養成講座を開催した。
- ・2日間実施し、日本赤十字社による「救助の訓練」、あいち防災リーダー会による「ライフラインの講義」、「災害図上訓練(DIG)」、海部東部消防組合による「AED講習」等を実施した。
- ・本取組において「防災リーダー」を養成することで、自主防災組織の結成・育成及び活性化を図り、地域防災力の向上に寄与することができた。



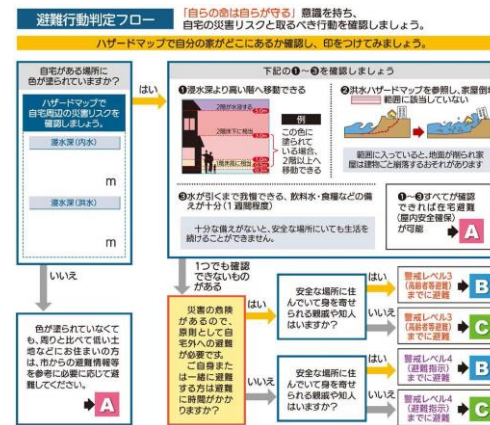
▲山田防災危機管理課長



▲災害図上訓練(DIG)の様子

【岩倉市】内水・洪水ハザードマップを活用した自主防災会地域合同防災訓練の実施(説明者:竹井 協働安全課長)

- ・令和5年4月に改訂した内水・洪水ハザードマップを活用し、災害時の危険回避や情報収集、マイ・タイムラインについて知識を深め、参加者自身が「いつ」、「何を」、「どうすべき」なのか考える機会を創出することを狙いとして実施した。
- ・市内に5つの小学校区があり、それぞれの小学校区で自主防災会地域合同防災訓練を実施している。その中で、内水・洪水ハザードマップについて解説を行った。
- ・訓練参加者は避難行動判定フロー図を活用し、自身の状況に合わせた避難経路を考えた。作成した各自の避難経路(浸水リスクの低い経路)をもとに、一般避難所まで移動する自主避難訓練を実施した。
- ・避難行動判定フローを活用しながらマイ・タイムラインについて解説を行ったことで、訓練参加者の水防災意識の向上に寄与することができた。



▲竹井協働安全課長

▲避難行動判定フロー